マラウイ国における森林保全活動の財政基盤構築

養蜂活動を例とした資金メカニズムによる森林保全の基盤形成

キーワード：マラウイ国, コーズ・リレーテッド・マーケティング, 資金メカニズム, 養蜂活動

海外プロジェクト部　嶋岡（しまおか）　啓太（けいた）・豊田（とよだ）　貴樹（たかき）・飯田（いいだ）　敏雅（としまさ）

はじめに

多くの開発途上国では、現在も森林の劣化や減少が続いています。その根本的な原因として、適切な森林管理体制の遅れと、体制を維持・運営するための財政基盤の脆弱さがあげられます。これらの国々では、森林管理の方針等を示した「森林法」等の法整備は進んでいますが、それを実際に具体的に動かしていく体制と財政基盤の整備が遅れています。

本報告では、森林保護区の持続可能な管理を実現する財政基盤の確立事例として、海外技術二課が国際協力機構（JICA）の技術協力プロジェクトとして実施しているマラウイ国の「ザラニヤマ森林保護区の持続的な保全管理プロジェクト」を紹介します。

ザラニヤマ森林保護区の持続的な保全管理プロジェクト

ザラニヤマ森林保護区（図 1）は、アフリカ南部の内陸国であるマラウイの首都リロングウェ市から、南方に約 50km、モザンビークとの国境まで広がる総面積約 98,000ha の森林です。このザラニヤマ森林保護区は、首都の水源林として重要な役割を担っています。

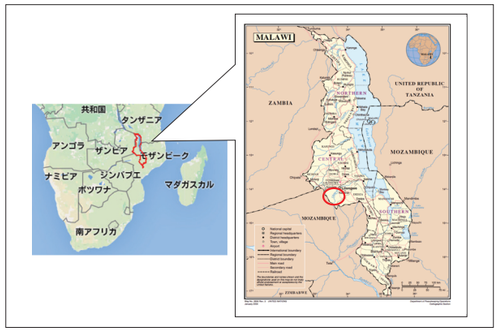

図1　マラウイ国とザラニヤマ森林保護区（赤丸箇所）

しかし、ザラニヤマ森林保護区では、薪炭材の採取を目的とした違法伐採や森林火災によって、総面積の 43% が非森林地に変化しました。最近でも 2017 年から 19 年のわずか 2 年間の間にも約 5,000ha の森林が非森林地となっています（図 2）。

「ザラニヤマ森林保護区の持続的な保全管理プロジェクト」（以下、本プロジェクト）は、ザラニヤマ森林保護区における保全管理体制の確立を目的として、森林に関係する様々な立場の利害関係者の意見交換を促進し、森林の現状と課題について共通認識を醸成します。また、地域住民の生計向上に資するパイロット活動を実施し、ザラニヤマ森林保護区の持続的な保全管理を実施する今後 10 年間の森林管理計画の策定を支援しています。

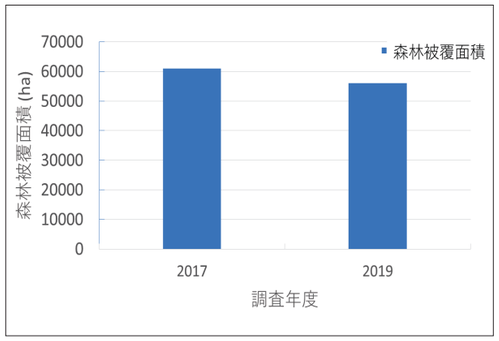

図2　ザラニヤマ森林保護区の森林被覆面積の推移
（出典：プロジェクト作成）

なお、関係者間で合意形成された森林管理計画が策定されると、計画を実行・管理するための資金が必要となります。しかし、マラウイは国家財政が脆弱で、さらに医療や教育等の解決すべき課題を多く抱えており、環境保全分野に対する予算配分は後回しとなっています。

資金メカニズムの導入

このため、本プロジェクトでは、外部資金の導入を目的とした資金メカニズムを確立し、森林管理計画の実行と管理の実現に取り組んできました。

具体的には、特定の商品を購入することが環境保護などの社会貢献に結びつくと訴える販促キャンペーンである「コーズ・リレーテッド・マーケティング（Cause Related Marketing：CRM）」、企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的に社会に貢献する「企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）」、企業による経済利益活動と社会課題の解決を両立させるという「共有価値の創造（Creating Shared Value：CSV）」等の導入、あるいはそれらを組み合わせた活動を支援しています。また、本プロジェクト終了後にこれらの活動を引き継ぎ、得られた資金を管理・運用するための基金、「ザラニヤマ流域保全基金（Dzalanyama Catchment Conservation Trust：DCCT）」も設立されました。このうち、コーズ・リレーテッド・マーケティングでは、飲料水ボトルやハチミツに本プロジェクトのロゴマークを添付し、売り上げの一部がザラニヤマ森林保護区の保全活動に寄付されるエコラベリングの活動を導入しています。ここでは「ザラニヤマハニー」というハチミツ販売にかかるエコラベリングの活動の詳細を説明します。

エコラベリング商品の「ザラニヤマハニー」

ザラニヤマ森林保護区では、保護区内および近隣に住む住民が違法伐採を行っていました。こうした住民は他に生計手段を持っておらず、違法伐採を止めさせるには代替の生計手段が必要です。このため、本プロジェクトでは、養蜂活動に取り組んできました。養蜂を選定した理由は、マラウイでは、JICA プロジェクトの一村一品プロジェクトによって、ハチミツの買い取りが保証されていたため、養蜂技術の習得が生計向上に直結すると判断されたためです。

また、養蜂活動を通じて住民が蜜源であるザラニヤマ森林保護区の重要性に気付く効果も期待されました。

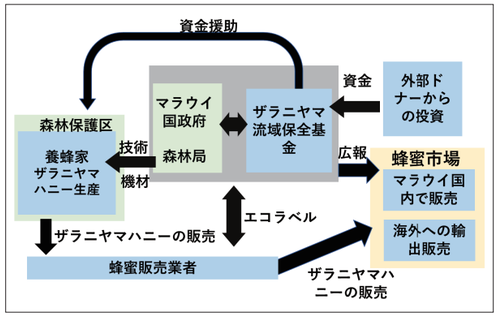

図3　蜂蜜販売とザラニヤマ流域保全基金の構成

図 3 は、ハチミツの販売を通じたエコラベリングの流れを示しています。地域住民の養蜂活動により生産されたハチミツは、買い取り業者の品質チェックを受け、基金によるエコラベリングよって「ザラニヤマハニー」としてブランド化されます。「ザラニヤマハニー」に添付されたロゴマークは、その蜂蜜を購入することがザラニヤマ森林保護区の保全に貢献することを消費者にアピールします。また、ブランド化によって、「ザラニヤマハニー」は、他のハチミツと比べ、付加価値の付与された高価格で販売されます。そして、「ザラニヤマハニー」の収益の一部は基金に還元され、ザラニヤマ森林保護区保全の活動に活用されます。ザラニヤマハニーは、現在、ザラニヤマ森林保護区周辺の 2 つの地域で年間 350kg が採蜜されています。さらに、2030 年には年間約 11,000kg が採蜜されるよう計画されています。

図4　養蜂活動の様子

図5　エコラベルの付いた蜂蜜

おわりに

今回、資金メカニズムの一環としての「ザラニヤマハニー」へのエコラベリングの導入について紹介をさせていただきました。本プロジェクトでは「ザラニヤマハニー」の今後の更なる販路拡大のため、マラウイ国内のみならず海外への輸出も視野に入れ、その一環として日本への輸出を検討し始めました。

2021 年 9 月には 100kg の「ザラニヤマハニー」を日本に向け試験的に出荷しました。アフリカ関係の産品を扱う専門商社によって、今後試験的に販売が進められ、可能性が見いだせれば、継続して扱って貰えることも期待されるところです。近い将来、「ザラニヤマハニー」が皆さんの身近な存在になるかもしれません。